

令和4年3月31日

令和3年度

事業報告

社会福祉法人 シルヴァーウィング

特別養護老人ホーム 新とみ

短期入所生活介護 新とみ

通所介護 新とみ

ウィング訪問ケアステーション

I. 施設関係

1. 特別養護老人ホーム

(1) はじめに

本年度は定員 40 名に対し、33.2 名の入所者数でした。月平均利用者実人員は 35.7 名と、昨年と比較し 2.4 名の増加です。長期入院、看取りなどによる退所者は 16 名、新規利用者は 20 名です。年度末現在の利用者の平均年齢は、男性 82.8 歳、女性 88.3 歳であり、男女合計の平均年齢は 86.4 歳です。なお、特養の年間平均稼働率は 82.96% です。令和 2 年度 79.32% に比べると、稼働率は 3.6% 上がっています。

表 1 前年度との比較 定員 40 名

項目	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
平均年齢	88.0 歳	88.4 歳	86.4 歳
平均介護度	4.44	4.3	4.22
年度末平均人数	33 人	32 人	36 人
延べ定員数	14,640 人	14,600 人	14,600 人
1 日平均利用者数	30.3 人	31.6 人	33.2 人
稼働率	75.72%	79.32%	82.96%

表 2 退所者 令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

退所者	人数	理由
死亡	4 名	入院による死亡
死亡	11 名	施設での看取り
入院	1 名	療養型病院へ入院
その他	0 名	在宅復帰→新とみ通所介護へ変更

(1) 入・退所の現状

①入院以外は、施設での看取りを行い、看護師・介護職・嘱託医・家族との連携を密に長く過ごしていただいた居室にて、最期を迎えてもらうことができました。

本年度は 11 名と、看取りでお見送りした利用者が多い年度でしたが、ご家族についても年々看取りへの希望が高まっている状況です。

②新規利用者は 20 名でした。新規利用者については、入所後、環境の変化による心身の変動が見られることが多く、様子観察に注力しました。比較的施設の環境に慣れていただけた利用者が多く、ご家族と連携をとりつつ、一人ひとりの生活の形を整えていきました。

③ 新規利用者の声かけにおいては、中央区で入所調整したリストに沿って声かけをするシ

システムになっているが、入所に時間がかかるケースが多くなっており、自宅での介護を希望するご家族も増えているのが現状です。

声かけにより、断られる理由として

- ・他施設との併願のため、すでに他施設への入所が決まっている
- ・現在入所している施設(有料・老健・グループホーム等)で満足している
- ・まだ在宅で、介護をしていきたい

(2) 事業実績について

利用者の平均介護度は令和2年度の4.3に対し、令和3年度は4.22とほぼ変わりなく推移しています。(別表2参照) 特養での対策としては、健康管理下で一層の介護の充実を図るとともに利用者の事故や病気のための入院を極力抑えることです。そのため

①健康管理の徹底、衛生管理の徹底、日常生活での異常に対する早期発見・早期対応の徹底。

②ハード面の充実として、インフルエンザやノロウィルスの感染防止他、感染拡大の新型コロナウイルスへの防止策として、空気清浄機他、施設全体の除菌剤の配置などを強化しました。万一来て「陰圧装置を設置した居室」を準備したが、本年度は、10月に発生した陽性利用者を速やかに陰圧装置設置の部屋へ隔離したことで、重症化を防ぐことができた。

③嘱託医による利用者の心身の定期的な健康管理として

- ・定期的な健康診断、予防注射の徹底による感染症対策+
- ・精神科医による精神面のケア、認知症状の緩和
- ・歯科医、歯科衛生士の定期的な往診のもと、口腔内の衛生管理による誤嚥性肺炎予防、嚥下機能の維持

その他、言語聴覚士が機能訓練に加わり、嚥下リハ、言語リハに注力しました。

多職種連携によるケアの体制は、今後も更なる充実を図っていきます。



千葉歯科訪問診療
定期的な口腔ケア



有資格介護職による
喀痰吸引

(3) サービスの内容について

本年度は引き続き、食事、入浴、排泄、接遇といった介護の基本業務をしっかりと行うことはもとより、身体拘束廃止、感染症防止、防災、安全対策、環境整備等にも力を入れて取り組みました。特に感染症防止では、新型コロナウイルスの出現により職員、利用者のマスク着用、手洗い、消毒、検温等の感染防止に注力しました。更にフロア、居室における換気に注意を払い、時間を測っての換気等を実施しました。

レクリエーションやリハビリテーションの充実ということでは、デイサービスと協働してのレク活動に力を入れ、利用者の日常生活にうるおいとやすらぎとかがやきが得られるよう努めました。コロナ禍の中で、ボランティア、インターンシップとのふれあいの機会が少なくなりましたが、本年度は段階的に外部ボランティアとのふれあいの機会を増やし、心身の活性化を図りました。

リハビリテーションは、機能訓練担当の理学療法士を中心に、他職種との協働により、身体、嚥下、言語等の機能面においてより充実したリハビリを実施することができました。自立支援を目的とし、歩行訓練等の身体リハから言語リハにいたるまで、一人ひとりの個別性を尊重した、きめ細やかなリハビリに取り組みました。

表3 レクリエーションにおける効果

プログラム	心身機能への効果
音楽療法	唱歌、懐メロ等は、認知症状の緩和や精神面への良質な刺激となっている
セラピードック (オンライン)	月に2回のセラピードックは、利用者に寄添うことで癒しや、リハビリの効果をもたらせている
健康吹き矢	楽しみながら、自然に呼吸法を体得できる
書道・そろばん	昔、覚えのある方は自然に筆が動き、指が動き、モチベーションが上がってくる
チェアエクササイズ	身体を動かし、自由に伸び伸びと身体を表現でき、終わった後も、爽快感が残っている
アロマセラピー	アロマの香りを楽しみながら、五感に刺激を与えることで感性が豊かになってくる
コミュニケーションロボット・パロ、アオイボ・パルロ・ペッパー	パロとの触れ合いにより、認知症の不安感、不穏を緩和してくれる。アイボは、様々な会話を引き出すきっかけになり、精神面の活性化が見られる
ベランダ菜園	認知症予防プログラムのひとつ。植物を育てることにより、心身への安定と、良質な刺激をもたらせる。



アザラシ型ロボット・パロとの
スキンシップ



イヌ型ロボット・aibo との
触れ合い

2. 短期入所生活介護

(1) はじめに

ショートステイはキャンセルや特養の空床があり、利用する立場からすれば昨年に続き比較的にしやすい状況でした。区内の方については、最長で30日利用を基本としつつ、抽選から漏れた方についても、急なキャンセルや特養利用者の入院により空いたベッドをより多くの方に利用していただくため、FAXなどで空き情報をタイムリーに提供しています。毎月、区外の事業所へ案内を出していることなどから、区外の方の利用も多く、かなりの成果をあげています。

別表10に示してあるように、特養・ショート合計の年間稼働率は、前年度100.64%に対して令和3年度は101.77%と上昇しています。ショートステイ単独での年間稼働率は、227.21%であり、昨年度より15.8%減少していることから、特養の稼働率が3.64%上昇しているため、ショートステイのベッド稼働率を減少させたと言えます。

① 周辺環境の変化

隣接区においても特養、老健の増加等があり、競争激化となっています。

本年度は、10月に新型コロナ感染者が発生する等、稼働率にも影響を及ぼしています。

② 地域の課題

- ・ 認知症独居高齢者の健康管理 食事・入浴・服薬等
- ・ 認知症高齢者の徘徊・火の不始末等
- ・ 独居高齢者の引きこもりによる認知症の進行
- ・ 高齢者世帯における体調管理
- ・ 高齢者世帯、独居高齢者の金銭トラブル

周辺環境の情報収集・地域の課題を分析し、ニーズを抽出することが重要です。緊

急ショート、医療的対応等、多様なニーズにいつでも対応できるだけの層の厚い体制づくりをし、利用者の増員を図っていきます。

表4 前年度との比較 定員6名（空床利用）

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年度末平均年齢	85.1歳	85.3歳	86.3歳
年度末平均介護度	3.26	3.39	3.50
年度末平均人数	43人	50人	46人
延べ定員数	2,196人	2,190人	2,190人
1日平均利用者数	16.9人	14.6人	13.6人
稼働率	281.33%	243.01%	227.21%

(2) サービス実施状況

送迎：施設～利用者宅の送迎（ドア ヷ ドアの実現）

エレベーターのない団地等の集合住宅では、階段昇降機(介護ロボット)を活用し、歩行困難な利用者の送迎を可能としました。

介護：身体の状態に応じた食事介助・排泄介助・おむつ交換・体位交換・施設内の移動の介助。

食事：事前の面接時に確認し、身体の状態に適した食事を提供しています。

入浴：週3回以上。身体の状態に応じ機械浴・介助浴・一般浴にて必要な介助を行っています。

個別機能訓練：小集団訓練の他、希望される利用者には、理学療法士による個別機能訓練が受けられます。その他、レクリエーション・音楽療法・セラピードッグ(リモート)など。

健康管理：毎日のバイタル測定と日々の服薬管理等の健康管理・指導

胃ろう、ストーマ、インスリン、バルーンカテーテル、在宅酸素等の医療的対応。

(3) サービスに関する苦情・相談

次のような苦情の申し出があり、誠意を持って対応し解決しました。

- ・持って行った衣服が紛失した。
- ・退所時に他人の衣類等が紛れ込んでいる。
- ・同じ部屋の利用者の声が大きく夜眠れなかった。

(4) 一年の状況と今後の課題

ここ数年の特徴として

① 2ヶ月前の申込みが減少

ショートステイの申込みは通常 2ヶ月前を基本としているが、本年度の申込み状況もこれまでの実績の半数くらいでした。理由としては、家族の生活スタイルの変化・ニーズの多様化により「2ヶ月前の申込み」という、決められた枠にはまらない家族のニーズが増えてきたことが考えられます。1ヶ月前頃より徐々に増えている傾向です。本年度も緊急ショート申込みが多くありました。

②地域、在宅の課題への対応

在宅における生活スタイルが様々なように、ニーズにおいても多様化してきました。地域・在宅における課題が、そのままショートステイ利用につながっているケースが多く、緊急ショート利用が顕著に増えています。

緊急ショートにつながるケースとして

- ・ 認知症利用者の徘徊、火の不始末によるボヤ、誤薬、異食等、命の危険に直面したケース
- ・ 認知症利用者の金銭トラブル
- ・ 独居の認知症利用者における医療的ニーズ：服薬管理、インスリン等
- ・ 介護者の病気、入院等

地域・在宅の課題は山積みです。認知症の進行により「これまでできていたことができなくなった」ことへの緊急ショート対応は、年々増加傾向にあります。また、主介護者の病気、入院による緊急ショートが圧倒的に多くなっています。

在宅における利用者、家族を支えるためのショートステイの役割は、今後もますます重要となるでしょう。そのためには、いつでも対応できる体制づくりと、職員への教育が不可欠です。

3. 通所介護

(1) 利用者の状況

①リハビリニーズへの対応

年齢、性別に関係なくリハビリへのニーズは高く、デイサービスへの目的のひとつでもあります。在宅生活を維持していく上で、心身機能の維持、日常生活動作の維持は重要であり、理学療法士のみならず、看護、介護、相談員が連携してニーズに対応しています。

②朝食サービス～夕食サービスまで対応

食事サービスにおいては、本年度も朝食サービス、持ち帰り弁当、夕食サービス等利用への対応を行い、独居、高齢者家族、就労家族等への支援に努めました。

また、食事サービスだけではなく、食前・食後の服薬管理も行っていることで、在

宅の負担軽減の役割を担っています。食事サービスは年度によって増減を繰り返しつつも、ニーズは根強く継続されています。

《在宅における課題》

- ・ 独居のため、食事、服薬管理が難しい→ 体調の悪化、病気の進行
- ・ 高齢者世帯のため食事作りが困難→ 体調の維持が難しく異常等にも気づきにくい
- ・ 家族が就労中→ 食事時間をとるのが難しい、不規則になりがち

表5 朝食サービス・持帰り弁当・夕食サービス利用人数

令和3年4月1日～令和4年3月末

項目	利用人数	延人数
朝食サービス	102人	885人
1ヶ月平均	8.5	73.75
持帰り弁当	203人	2,165人
1ヶ月平均	16.9	180.4
配食サービス	37人	370人
1ヶ月平均	3.1	30.8
夕食サービス	125	1055人
1ヶ月平均	10.4	87.9

③医療的対応について

前年度同様、本年度も医療的対応を必要とする利用者が多くいました。

胃ろう3名、インスリン2名、バルーンカテーテル4名、在宅酸素3名、痰吸引6名
褥瘡処置5名、ストマ交換 1名、ネプライザー 1名

これら医療的対応に応じるため、看護師2名体制をとり、手厚いケアに努めています。今後も医療的ニーズの増大は想定され、デイの職員においても知識とケアの質の向上を図ることが課題です。また、訪問診療を利用している利用者が年々増えており、デイの看護師、相談員と、居宅ケアマネ、訪問診療医、訪問看護師との連携が必須となっています。本年度は、更に連携を厚くしています。

令和3年度の利用実人員は別表8のとおり1,107人、利用実人員は前年度1,001人と比べて、106人増加、稼働率は74.60%と昨年より6.09%上回っています。延べ利用数は、利用者一人あたりの利用回数が月平均8.36回となり、前年よりも約0.14%減少しています。利用者の平均年齢は別表7のとおり男女合計の平均では83.1歳となっています。内訳では男性80.2歳、女性85.2歳で、前年よりも低くなっています。平均介護度は3.04と、前年とほぼ同じです。

新規利用者においては、医療的ニーズ、在宅における介護者の介護力の低下、家族の就労継続、リハビリ、入浴希望等、様々な理由による申し込みがあります。デイサービスに係わる送迎利用率は98.9%、入浴利用率は82.0%となっています。

前述したとおり、特養・ショートに関しては既に100%以上の稼働率であるので、施設の収入を伸ばすにはデイサービスの稼働率を上げることが急務であり、長期化するコロナ感染の状況を見据え、様々な取組みを図る必要があります。

表6 前年度との比較 定員34名

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年度末平均年齢	83.1歳	83.5歳	83.1歳
年度末平均介護度	3.14	3.05	3.04
実人数	1,183人	1,001人	1,107人
延べ定員数	12,444人	12,410人	12,410人
1日平均利用者数	26.2人	23.3人	25.4人
稼働率	76.78%	68.51%	74.60%

(2) 運営状況

①行事の実施

開設当初より、利用者の方に生活の豊かさとメリハリを持っていただくために、菖蒲湯や柚子湯など季節に応じた日課活動を取り入れるとともに、特養と合同でイベントを開催しています。

本年度は、コロナ禍のため様々なレクリエーション活動に自粛・制限等がもたらされました。地域のボランティアとの交流も少なくなりましたが、そうした中でも、エクササイズや、音楽療法、そろばん等の活動を少しずつ再開し、利用者の心身機能の活性化に大変効果をあげています。また、本年度もペッパーとのレクリエーションの時間を多く持ち、歌やゲーム、リハビリ等ユニークなコミュニケーションタイムを創ることができました。コミュニケーションロボットとのかかわりは、海外メディアにも多く取り上げられています。



コミュニケーションロボット・ペッパーと利用者とのレクリエーション



口腔ケアをアシストしてくれるロボホン



春のお花見



スイカ割り



季節のかざりものづくり



介護職員による演奏会



立川平林師匠による落語



アコーディオン演奏会



コロナ禍の介護職員による手作りイベント



表7 主な行事

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・お花見 小人数つつ京橋公園へお花見に行った。コロナ禍のお花見だが、利用者のイキイキとした表情に、季節感を味わうことの大切さを思う。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・鯉のぼりづくり、かぶとづくりにと、童心に還って楽しんだ ・5月1日～7日まで、菖蒲湯祭り 菖蒲の香りに季節感を堪能した。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・紫陽花鑑賞会 施設中庭に開花した紫陽花を鑑賞、皆で季節感を楽しんだ ・大正琴演奏会再開 季節の歌を演奏してもらい皆で初夏を楽しんだ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕さま 利用者・職員ともに短冊づくりを楽しむ。コロナ収束を祈り、短冊を笹の葉に飾り付けし、涼やかに七夕さまを送った。 ・スイカ割り大会 デイ・特養合同のスイカ割りは、夏の風物詩として恒例となった。大会後のスイカのおやつは格別である。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・暑気払い そうめん、冷や麦、うなぎの蒲焼、南瓜の煮物等、暑さに負けない夏の味を愉しんだ。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老の日 利用者、職員と敬老の日をお祝いした。久寿玉を長寿の利用者に割ってもらい、健康寿命の大切さを皆で話し合うひと時を設けた。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の大運動会は中止
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・紅葉狩りはコロナ禍のため中止。紅葉した葉を使って、工作を楽しんだ。 ・アロマテラピー等、再開。 s y
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスコンサート 職員によるハンドベル演奏が大変好評だった。 ・恒例の築地ライオンズによるクリスマス会。歌手による歌のプレゼントは利用者の心をなごませてくれた。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年会 利用者、職員との新年会は、すごろく、福笑い等、伝統的な正月遊びに興じた。 ・ビンゴ大会を開催 景品のお年玉袋を抱えた利用者の笑顔がイキイキと映えた。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・2月3日の節分は、職員が鬼になって利用者のフロアを駆け巡った。 ・コロナ禍での運動不足を防止するため、運動レクを増やしていく。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会 コロナ禍のため、前年同様中止となった。 ・お花見は、近くを施設車で回って桜の開花を見学

② 送迎について

階段昇降機(スカラモービル)を活用することにより、エレベーターのない団地等の集合住宅に住む利用者のデイサービス利用を可能にすることができました。歩行困難なため、階段昇降がネックとなって外出ができなかった利用者を、デイサービス利用に繋げることができたことは、利用者の自己実現のひとつとして大きな成果でした。階段昇降機の支援を必要とする利用者は徐々に増え続け、毎日2名～4名の利用者の昇

降を行っています。

送迎においては、中央区他、江東区、港区、千代田区、墨田区まで実施しており、98.9%の送迎率となっています。



スカラモービル
コンパクトタイプ



スカラモービル
車イスタイプ

③ 入浴について

デイサービス利用理由の大きなひとつとして入浴があります。その期待に応えるため希望者には基本的には毎回入浴を提供しており、入浴利用率は83.9%です。

身体状況に応じた入浴形態で対応しています。皮膚の異常、バイタルの変動等、入浴時に気づくことが多く、看護師が2名体制で対応しています。

④ 機能訓練

理学療法士による個別機能訓練を実施しています。リハビリテーション病院を退院後に通われている利用者も多く、身心機能の維持に努めています。歩行アシスト、免荷式歩行器ポポ、デジタルミラーといったリハビリ・ロボットを活用しながらの訓練は、利用者のモチベーションも向上し、リハビリ効果を見せています。

利用者の中には、5年以上歩行アシストを装着した歩行訓練を継続されている方もおり、歩行の維持を保たれています。

4. 特養・デイサービス合同

(1) 各種委員会

各種委員会は役割と人員を常に見直し

- ①年中行事委員会 ②栄養委員会 ③身体拘束廃止委員会 ④排泄・褥瘡委員会
⑤ケアプラン委員会 ⑥感染症対策委員会 ⑦事故防止対策委員会 ⑧防災対策委員会
⑨リハビリ委員会 ⑩環境・口腔ケア委員会 ⑪安全・衛生委員会(介護職のための)
⑫ロボット委員会

等を開催しました。平成20年2月からは、毎月1回の各委員会の会議を開催しています。

(2) 行事

四季折々の各種行事は、3階フロアを利用して、特別養護老人ホーム・短期入所・通所介護利用者合同で実施する形をとり、年間を通して各種行事に取り組みました。

(3) 防災訓練

防災管理者及び京橋消防団には、現在1名の職員が入団しています。新富町会の防災訓練に参加するなど、防災への知識・技術の向上に務めました。新規に採用された職員には、消防機器訓練を随時実施しています。さらに、京橋消防署への研修参加の他、地域等の協力を得て、毎月1回「震災・消防訓練」を実施しています。

(4) 職員研修

- ・4月～3月：毎月1回 本年度もオンライン研修を実施しました。
ZOOM を使うことで、法人全施設とつながることが可能となり、同時刻に一斉に研修を受けることができるようになったことは、コロナ禍での大きな収穫です。
- ・ネット配信サービスを活用した「eラーニング研修」を導入。職員が自分のペースに合わせて、希望するプログラムをいつでも受講することができるというメリットがあります。

表8 資格取得等に向けた職員研修(令和元年4月～令和3年3月)

研修名	特養	通所	訪問
初任者研修	1人	1人	0人
実務者研修	2人	1人	1人
介護福祉士資格取得研修	0人	0人	0人
口腔ケア研修会	0人	2人	0人

表9 社内研修

No.	名称	開催日	参加人数	実績
	オンライン研修 18:00~19:00	令和3年4月初~ 令和4年3月末	特養 デイ	講師：勝野顧問 常勤・非常勤対象
3-1	認知症高齢者への理解と ケア・身体拘束廃止につい て	4/12	19名	特養3名・デイ8名・訪問3名 栄養士1名・理学療法士2名 事務2名 ケアマネ1名 施設 長1名
3-2	看取りについて	5/10	20名	特養3名・デイ8名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名 事務2名 ケアマネ1名 施設長1名
3-3	高齢者施設における感染 者対応について	6/14	21名	特養4名・デイ8名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名 事務2名 ケアマネ1名 施設 長1名
3-4	脱水・熱中症・水分補給に ついて	7/12	16名	特養4名・デイ6名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士1・相談 員1名・事務2名・施設長1名
3-5	事故防止への取組み	8/9	19名	特養3名・デイ5名・訪問3名 栄養士1名・理学療法士3名・相 談員1名・事務2名・施設長1 名
3-6	特別養護老人ホームにお ける褥瘡ケア	9/13	16名	特養2人・デイ3名・訪問2名 栄養士1名・理学療法士2名・ケ アマネ1名・相談員2名・事務2 名・施設長1名
3-7	高齢者の権利擁護につい て	10/11	19名	特養3名・デイ6名・ 訪問2名・理学療法士2名 ケアマネ1名・相談員2名 事務2名・施設長1名
3-8	新型コロナウイルス等の 感染症対策について	11/8	18名	特養4名・デイ5名・栄養士1名 理学療法士2名・ケアマネ1名 相談員2名・事務2名・施設長1 名
3-9	看取りについて	12/13	22名	特養6名・デイ6名・栄養士1 名・理学療法士2名・ケアマネ 1名・相談員2名・事務2名・施

				設長 1 名・訪問 2 名
3-10	リスクマネジメントについて	1/10	18 名	特養 3 名・デイ 6 名・栄養士 1 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名
3-11	プライバシーポリシー	2/14	19 名	特養 3 名・デイ 6 名・栄養士 1 名・ケアマネ 1 名・相談員 2 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名・理学療法士 1 名
3-12	感染症対策について	3/14	15 名	特養 3 名・デイ 4 名・栄養士 1 名・ケアマネ 1 名・事務 2 名・施設長 1 名・訪問 2 名・理学療法士 1 名
3-13	新人研修 認知症高齢者への理解	1/20	2 名	特養 2 名
3-14	新人研修 事故報告書の書き方	3/25	4 名	特養 2 デイ 2 名



特養・デイ社内研修



特養：デイ合同感染症対策研修

(6) ボランティア・実習生の受け入れ

地域交流、デイサービスの日課活動の潤活化および初任者研修の実習の場として受け入れをしています。

定期的なボランティアとして朗読ボランティア、書道ボランティア、傾聴ボランティア等が年 12 回。その他、デイでは地域の方や、外国の方を含めたボランティア団体が利用者の話し相手、フロアの手伝いボランティアとして定期的に訪問してくれていましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、外部ボランティアも制限することにな

りました。本年度は段階的に再開し、感染防止対策を取りつつ、コロナ禍前に近づけている状況です。

本年度は実習生の受入れはなく、職場体験、インターンシップの受入れがありました。

実習生、インターンシップ、ボランティアとの交流は、日頃触れることの少ない若年層との世代間交流として、利用者一人ひとりに良質な刺激をもたらせる効果があるため、コロナの状況を踏まえつつ再び積極的に受け入れていきます。

表 10 令和3年度・実習生等の受け入

項 目	人 数 (延)
介護福祉士取得	0 人
教員免許取得希望者介護体験	0 人
職場体験	5 人
インターンシップ	5 人
小・中学生ボランティア実習	0 人
イナッコ教室ボランティア	0 人
春休み福祉体験合宿	0 人

(7) 技能実習生の受け入れ

令和3年3月より、中国からの技能実習生1名の受け入れを行いました。

指導員として、特養・デイの介護職5名を選び、介護業務、介護技術・接遇等の習得を目的として育成していきます。期間は3年間です。

(8) 本年度の取組みについて

本年度は、コロナ禍の中にあって、積極的に新たな取組みにチャレンジした年度でした。一時期、特養において新型コロナ感染拡大の状況があり、収まるまでの約1ヶ月間は施設全体が疲弊し、停滞ムードが漂っている状況でした。が、その状況を乗り越え、前年度を上回る様々な実証試験への参画、業務改善活動への取組み等の成果が上げられましたことは、現場を活性化させ、職員のモチベーションアップ、ケアの質向上においても、良質な結果をもたらしています。

◆特養

1. 【介護現場と開発企業の意見交換実施事業等】テクノエイド協会公募

- ・ 開発企業 日立チャネルソリューションズ株式会社
- ・ 機器の名称 「オンライン診療ロボ」
- ・ 期 間 令和3年9月～12月末
- ・ 目 的 高齢者に特化した端末で画面が大きくて見やすく、難しい操作が不要であり、高齢者が一人でも操作可能となるオンライン診療ロボの開発

表 11

意見交換実施日	参加者	実施内容
12月10日 オンラインによる意見交換を実施する	介護職 2名 理事長 1名 施設長 1名 事務職 2名	1. 開発企業が課題としてとらえているスマホによる高齢者のオンライン診療について、開発企業の提案を意見交換する。 ①機器の開発についての現場サイドの視点、 ②施設におけるオンライン診療ロボの役割 ③オンライン診療の現状
開発企業の提案		<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ操作では、文字が小さく高齢者には見えにくいので、高齢者が座って利用できる卓上型オンライン診療端末を想定 ・様々なデバイスの搭載により、高齢者患者の詳細なデータが取得できる。 ・病院へ外出することなくオンライン診療を受けることで、感染リスクの軽減となる。
施設サイドからの提案・アドバイス		<ul style="list-style-type: none"> ・使用にあたっては個人情報等の観点から、ある程度のスペースとおちついた空間が必要である。 ・椅子や車椅子に座ってオンライン診療ロボに向き合うことが可能な利用者が適用範囲ではあるが、ベッド上でのオンライン診療を可能にすることも、検討課題である。 ・高齢利用者にとっては、感染リスク等の観点からもオンライン診療は心身の負担軽減となる。 ・施設においては、現在利用者情報は多職種間での連携によって管理されているが、オンライン診療端末の開発により、データの蓄積が可能となり、一人ひとりの健康管理の環境がより効率良く、かつ精度が向上していくことが期待できる。

2. 【介護現場と開発企業のアドバイス支援実施事業等】テクノエイド協会公募

- ・ 開発企業 ベッドの上で入浴企画株式会社
- ・ 機器の名称 「ベッドの上で入浴」
- ・ 期 間 令和3年11月～令和3年12月末
- ・ 目 的 寝たきりの重度利用者であっても、移動の負担なくベッド上で入浴が可能である。介護者、被介護者の両者にとって負担が軽減される。

表 12

モニター実施日	参加者	実施内容
1回目 11月24日	介護職 4名 理学療法士 1名	1回目 ダイルームのテーブルをベッドに見立て、

2回目 12月17日	相談員	1名	事業者の作成した手順書に沿って入浴機器を組み立て、セッティングしてみる。
	事務職	2名	
	施設長	1名	2回目 浴室設置のベッドを使用し、参加職員が主体となって、入浴機器を組み立てた。人形を利用者に見立て、実際に給排水ポンプを使い、お湯を入れて実践した。

開発企業の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・重度の被介護者の入浴は、介護者、被介護者のどちらにとっても負担が大きい。寝たままで、移乗、移動の負担なく、いつでも入浴ができる入浴機器の開発。在宅、施設における入浴支援機器として、重度者を想定し検証していきたい。
施設サイドからの提案・アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗・移動の負担なく入浴が可能であれば、在宅生活を継続していく上での大きなポイントとなる。現時点では、場所やスペース、準備等に課題があるが、機器のコンパクト化、半自動化が図ればベッド上での入浴支援機器として、期待できる。

3. 【デジタル技術を活用した業務改善活動】 (東京都委託事業)公募

- ・委託企業 NTT データ経営研究所
- ・期間 令和4年1月～令和3月末
- ・目的 福祉サービス事業所を対象とし、すでに導入したデジタル活用を再活用するための業務改善活動を実施。
- ・応募テーマ 「装着型アシストロボット(LEAVO)の再活用の実践」

表 13

実施日	参加者	実施内容
アドバイザーとの定例ミーティング(オンライン) 毎週1回 水曜日	介護職 4名 事務職 2名 施設長 1名	1. 導入済みのデジタル機器に対して抱えていた問題点の抽出 2. 導入済みのデジタル機器を再活用するための改善活動 ① 業務の改善活動の準備 ② 現場の課題の見える化 ③ 実行計画の立案 ④ 実行計画の実践 ⑤ 改善活動の振り返り ⑥ 実行計画の練り直し

アドバイザーからの提案	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 使用率 50%を目指す ・実践する改善活動 <ul style="list-style-type: none"> ① 使用場面を明確にしてルール化する。→7階では必ず LAEVO を使用する。対象となる利用者を選び、効果を検証する。 ② LAEVO の手順書を作成する。 ③ 多職種、事業所を巻き込んで問題・課題に向き合う ④ 小さな成功体験を積み上げていく。
現場からの活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・7階の業務に特化し LAEVO を使用してみた。ベッド⇄車椅子移乗に効果があるという発見があった。 ・おむつ交換の介助時にも腰への負担がかからないという成功があった。 ・現場で独自に作成した LAEVO 装着ガイドにより装着できる職員が増え、標準化された。

※このたびの【デジタル技術を活用した業務改善活動】については、東京都福祉保健局監修「福祉職場働き方改革に向けた検討会報告書」に掲載されました。
新とみの取組みは、これからの福祉職場のありかたとして、デジタル技術を活用していく上での、ひとつの実践例として取り上げられています。

4. 【全自動歯ブラシ・プロトタイプ実証試験】

- ・開発企業 株式会社 Genics（早稲田大学ベンチャー企業）
- ・期 間 令和3年11月～令和4年3月末
- ・目 的 ロボット技術を応用した次世代型全自動歯ブラシは、一人ひとりの歯型に沿って短時間かつ効果的な歯磨きが可能である。これによって高齢者の口内環境を改善し、他の病気の誘発を防ぐ。また、ケアする介護職にとっても業務の負担軽減となる。

表 14

実施日	参加者		実施内容
令和3年11月18日～ 令和4年2月末	介護職	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員によるモニターを実施する。 ・説明会を重ねながら、歯型の採取、個人用の歯ブラシの装着状況等を検証する。 ・課題・問題を抽出し、開発へ反映していく。
	事務職	2名	
	施設長	1名	

5. 【ガスプリングを用いた軽量小型こし支援機器に関する実用化開発及び実証試験】

特養・デイサービス合同

- ・開発企業 株式会社 イノフィス（東京理科大学ベンチャー企業）

- ・期 間 令和3年12月1日～令和4年1月末
- ・目 的 介護者の腰を支援することで、腰への負担軽減を図る。

表 15

実施日	参加者	実施内容
令和3年12月1日～ 令和4年1月末	介護職： 7名 事務職 2名 施設長 1名	・介護職員によるモニターを実施する。 ・7台のこし支援機器を7名の介護職が使用し 介助場面での効果を検証する。 ・対象となる職員は、使用ごとにアンケートを 提出し、実施状況を報告する。

6. 令和3年度老人保健健康増進等事業

【高齢者の介護の現状に関する調査事業】 厚生労働省委託事業

- ・委託機関 PwC コンサルティング合同会社
- ・調査期間 令和4年1月～令和4年2月(この期間の連続する48時間)
- ・目 的 介護保険施設における最新の高齢者介護の現状を把握すること

表 16

実施日	参加者	実施内容
令和4年1月～令和4 年2月中旬	介護職： 4名 事務職 2名 施設長 1名	・連続する48時間(日勤・夜勤)のケアの状況 を、介護職(4名)がカメラを装着し撮影して いく。 ・ケアの様子を撮影した映像をもとに、時間記 録を作成する。 ・時間記録をもとに、業務効率等を分析・検証 介護分野における生産性向上を図っていく。

◆デイサービス

1. 【介護現場と開発企業のアドバイス支援実施事業等】 テクノエイド協会公募

- ・開発企業 株式会社 PRIDIST
- ・期 間 令和3年9月～令和3年10月末
- ・機器の名称 Time Tapper
- ・目 的 日常生活における日々のルーティンとなる、忘れてはいけない「ToDo
リスト」を事前にタブレット画面に登録し管理することで、高
齢者の記憶の補完、やり忘れ防止、生活リズム安定へのサポート、
かつ介助者への負担軽減を図る。

表 17

モニター実施日	参加者	実施内容
---------	-----	------

1回目 9月22日 2回目 10月20日	介護職 2名 理学療法士 1名 相談員 1名 事務職 2名 施設長 1名	1回目・2回目 Web会議にて、開発したタブレットの説明、使用方法についてレクチャーを受ける。 デイサービスの利用者を選択し、実際に使用してもらう。 ・対象利用者：ある程度機器の扱いは可能だが、短期記憶や時間管理の困難な層 ・対象利用者に使用してもらい、効果、問題・課題を抽出する。
開発企業からの提案	・高齢者の日常生活の中で、忘れてはいけないことを「Time Tappe」がサポートすることで記憶の補完、スケジュール管理を促し在宅生活が維持できるよう、自立支援	
デイサービスからの提案・報告	・対象利用者を10人まで広げ、タブレットを使用してもらった。表示されている字が見えにくい、タブレットが重い、といった意見が多々あった。 ・早い段階から使うことでタブレットに慣れ、日々の生活の中に、タブレットでチェックを行うという作業が習慣化されるようになれば、認知症状が出てきた際にも、維持していくことは可能かと期待される。	

2. 認知症予防プログラムへの取り組み

- ・ゴーヤカーテンづくり
- ・ベランダ菜園

本年度も昨年に引き続きコロナ禍のため外出レクも中止となり、利用者様へのプログラムの一環として、認知症予防プログラム：ゴーヤカーテンづくり、ベランダ菜園等への取り組みを行いました。

種を蒔くことから始め、発芽し、蔓が伸び、つぼみをつけ、花と開花していく様はコロナ禍で引き籠もる時間の多い高齢者にとって、大変良い刺激となりました。



(9) 地域公益活動

① 東京子育て応援事業

平成 28 年 6 月～平成 30 年 3 月末の 2 ヶ年にかけて、東京都の助成事業「東京子育て応援事業」に取り組んできましたが、助成期間を過ぎた後も継続して運営してきました。

平成 30 年 4 月からは、法人の独自事業として「子ども英会話教室」を開催し「子どもそろばん教室」「子ども食堂」と併せて、地域の子どもたちの安心・安全な居場所づくりとして運営を展開してきました。

② 平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業

「成果連動型助成(既存の取組みレベルアップ)」に選定
平成 30 年度子供が輝く東京・応援事業に選定されました。成果連動型助成という、成果に応じて 1/4、3/4 と助成が連動していくため、成果をより見える化していかなければならない取組みです。

- ・事業実施期間：平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月 31 日
- ・実施事業名【未来の社会で輝ける子育て支援事業の実現】
- ・事業計画

【プログラム】

- 1) 1 カ月め：アンケートの作成
登録書の配布
地域への説明会(学校、保護者等)
- 2) 2 カ月め：評価指標のデータの収集方法と書式の整理
登録書の受領
体験学習の実施
- 3) 3 カ月め：指標データの評価と進め方の見直し・改善案の検討

【成果目標】

- 同世代、多世代とのコミュニケーションを取りながらの食事は、食べることへの楽しみを育み、感性を養い、孤食問題への一助となる。
- そろばん教室で数多くの問題を繰り返し反復練習することによって忍耐力を鍛え、英会話教室で異文化と触れ合うことで国際感覚を養うことを目指す。
- 介護現場体験を通して「高齢者と介護」というテーマに自然に向き合える人間形成を実現する。

【実施状況】 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月末

- 新とみ 子どもそろばん教室+子ども食堂 7 回開催
- 新とみ 子ども英会話教室+ 子ども食堂 8 回開催
- 土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 4 回開催

●土支田 子ども英会話教室+ 子ども食堂 4回開催

※戸山いつきの杜については、令和2年3月15日より実施の予定だったが、感染症の流行により延期となった。

【実施状況】 令和2年4月～令和3年3月末

※ コロナ感染防止のため、新とみの子ども食堂は中止

○新とみ 子どもそろばん教室 2回開催

○新とみ 子ども英会話教室 2回開催

●土支田 子どもそろばん教室+子ども食堂 2回開催

●土支田 子ども英会話教室+子ども食堂 2回開催

◎戸山 子ども英会話教室+子ども食堂 1回開催

本年度は、各事業所ともにコロナの影響を受け開催月は大幅に減ってしまいました。

平成30年4月1日～令和3年3月31日まで取り組んできた「子どもが輝く東京応援事業：成果連動型助成」の実績を東京都福祉保健財団に提出しました。

子ども・親へのアンケート結果の集計を基に、評価指標データ・の集計結果として 子ども・親への成果は3/4助成という形で、東京都福祉保健財団より一番高い評価をいただきました。

子育て応援事業については、助成期間を終了したあとも、法人独自の事業として継続していきます。

令和3年度は、法人独自の事業として取り組んできました。感染状況に応じて、開催・中断を繰り返してきましたが、子どもたちはいつでも「自分たちの居場所」として集まっています。

【実施状況】 令和3年4月～令和4年3月末

※コロナ感染拡大防止のため引き続き、子ども食堂は中止

○新とみ 子どもそろばん教室 6回開催

○新とみ 子ども英会話教室 6回開催

●土支田 子どもそろばん教室 1回開催

◎戸山 子ども英会話教室 5回開催

子ども英会話教室・そろばん・みんなで食事

開智日本橋学園・上智大学留学生のボランティアの皆さんと

平成30年4月～令和2年3月末



令和2年4月～令和3年3月末
コロナ禍の中でマスク着用で実施



令和3年4月～令和4年3月末



5. 訪問ヘルパーステーション

(1)はじめに

平成 28 年 3 月 1 日、新とみ併設として「ウィング訪問ケアステーション」を開設しました。本年度も新規利用者の開拓に力を入れましたが、移動時間の効率性・ヘルパーの負担軽減・業務効率を考え、近隣でのサービス開拓に注力いたしました。

1. サービス提供時間 8 時 30 分～18 時(時間外については応相談)
2. 実施地域 中央区・港区・千代田区・江東区
3. サービス内容 身 体：排泄介助、オムツ交換、食事介助、口腔ケア等
生活援助：掃除、買い物、デイサービスの送迎支援等
4. 本年度利用者実人数 444 人 昨年度 398 人
5. 新規利用者数 29 人 昨年度 24 人

表 15 要介護度別利用者状況

要介護度	2 年度利用人数	2 年度延人数	3 年度利用人数	3 年度延人数
要支援 1	79 人	354 人	59 人	252 人
要支援 2	41 人	215 人	49 人	215 人
要介護 1	60 人	328 人	71 人	388 人
要介護 2	81 人	428 人	87 人	666 人
要介護 3	70 人	1,243 人	107 人	1631 人
要介護 4	45 人	699 人	44 人	515 人
要介護 5	22 人	170 人	27 人	200 人

① 利用者の状況

表 15 にあるように、要支援から要介護 5 の利用者まで、生活、身体介助と幅広いニーズがあります。要支援の利用者には、利用者の自立支援を促す援助を行うことが重要であり、質の高い援助技術が求められます。

在宅においては、介護度の高い利用者が訪問介護サービスを利用しながら在宅生活を維持しており、利用者はもとより、家族の生活を支える上でも訪問介護は重要な役割を果たしています。

今後、訪問看護、訪問診療等様々なサービス提供事業者との連携が不可欠であり、情報共有を図りながら、清潔かつ安心・安全な在宅生活の維持に努めます。

本年度も新型コロナウイルスの影響を受け、訪問サービスのキャンセル等があり、売り上げにも影響がありました。

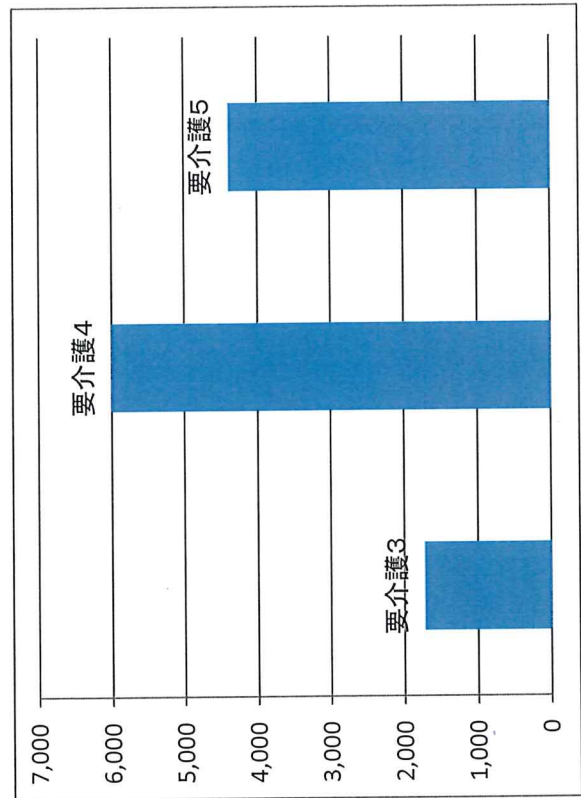
②地域・在宅の課題

- ・在宅における、劣悪な療養環境の問題

- ・認知症状の進行におけるもの盗られ妄想による金銭トラブル
- ・近隣住民とのトラブル
- ・家族の介護ストレスによる心疾患

これら地域・在宅における課題は、訪問ヘルパーが関わるケースも多々あり、研修を始めとした教育は必須であり、質の高いサービス提供が急がされます。

(別表3)



< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	13名	82.8	58～98
女	24名	88.3	72～102
(全体)	37名	86.4	58～102

(別表1)

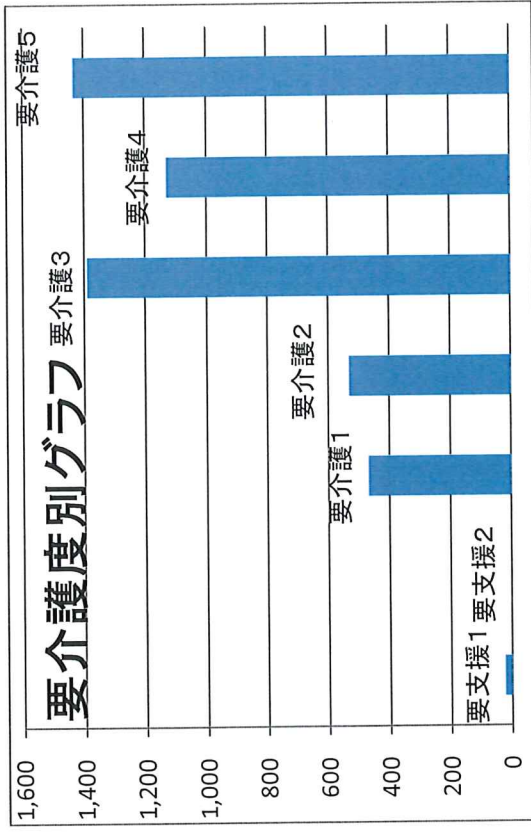
(別表2)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護3	136	155	150	155	155	150	139	150	124	141	140	130	1,725
要介護4	446	508	530	511	496	495	455	429	465	524	538	603	6,000
要介護5	413	433	383	342	330	338	332	360	400	370	314	372	4,387
計	995	1,096	1,063	1,008	981	983	926	939	989	1,035	992	1,105	12,112
要介護平均	4.28	4.25	4.22	4.19	4.18	4.19	4.21	4.22	4.28	4.22	4.18	4.22	4.22
実人員	37	37	37	35	34	36	34	33	33	37	37	38	428
述べ定員数	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,200	1,240	1,200	1,240	1,240	1,120	1,240	14,600
1日平均利用者数(人)	33.2	35.4	35.4	32.5	31.6	32.8	29.9	31.3	31.9	33.4	35.4	35.6	33.2
稼働率	82.92%	88.39%	88.58%	81.29%	79.11%	81.92%	74.68%	78.25%	79.76%	83.47%	88.57%	89.11%	82.96%

特養（定員40名）

(別表6)



< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	16名	85.8	78～91
女	27名	86.7	68～103
(全体)	43名	86.3	68～103

(別表4)

(別表5)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1				14	9								23
要支援2													0
要介護1	42	28	41	77	51	49	30	25	32	39	31	24	469
要介護2	13	6	19	58	38	28	44	54	78	67	60	66	531
要介護3	110	123	82	120	109	138	142	95	150	102	75	144	1,390
要介護4	139	117	85	64	121	82	69	100	104	100	88	61	1,130
要介護5	105	114	101	117	159	115	104	127	156	135	102	98	1,433
計	409	388	328	450	487	412	389	401	520	443	356	393	4,976
要介護平均	3.62	3.73	3.57	3.11	3.57	3.45	3.44	3.62	3.53	3.51	3.48	3.36	3.50
実人員	44	42	38	49	56	47	40	46	51	50	43	43	549
延べ定員数	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	186	2,190
1日平均利用者数(人)	13.6	12.5	10.9	14.5	15.7	13.7	12.5	13.4	16.8	14.3	12.7	12.7	13.6
稼働率	227.22%	208.60%	182.22%	241.94%	261.83%	228.89%	209.14%	222.78%	279.57%	238.17%	211.90%	211.29%	227.21%

ショートステイ(介護予防含む)(定員6名)

(別表7)

< 年度末平均年齢 >

性別	人数	平均年齢	年齢分布
男	45名	80.2	52～98
女	62名	85.2	53～103
(全体)	107名	83.1	52～103

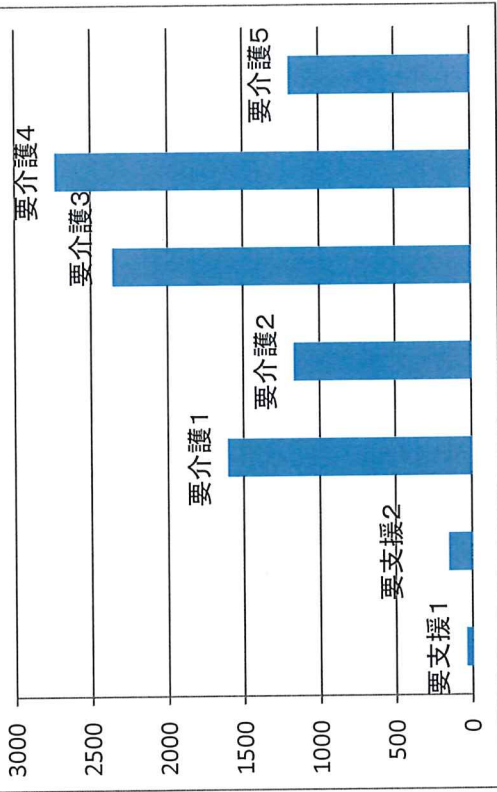
(別表8)

< 月別利用者の状況 >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	5	4	4	5	4	4	5	4	5				40
要支援2	12	13	14	12	12	13	13	12	14	12	12	14	153
要介護1	146	118	118	128	136	136	128	130	142	143	124	157	1,606
要介護2	99	99	90	90	91	93	82	101	106	104	113	100	1,168
要介護3	198	215	187	196	205	197	196	197	181	173	185	231	2,361
要介護4	214	252	221	230	228	231	222	234	262	230	199	211	2,734
要介護5	103	104	89	130	122	111	97	86	103	90	60	101	1,196
計	777	805	723	791	798	785	743	764	813	752	693	814	9,258
要介護平均 1日平均利用者数(人)	2.99	3.11	3.05	3.14	3.09	3.07	3.05	3.01	3.05	2.99	2.90	2.96	3.04
実人員	91	90	86	93	87	93	86	91	98	99	91	102	1,107
述べ定員数	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	1,020	1,054	1,020	1,054	1,054	952	1,054	12,410
稼働率	76.18%	76.38%	70.88%	75.05%	75.71%	76.96%	70.49%	74.90%	77.13%	71.35%	72.79%	77.23%	74.60%

(別表9)

要介護度別グラフ

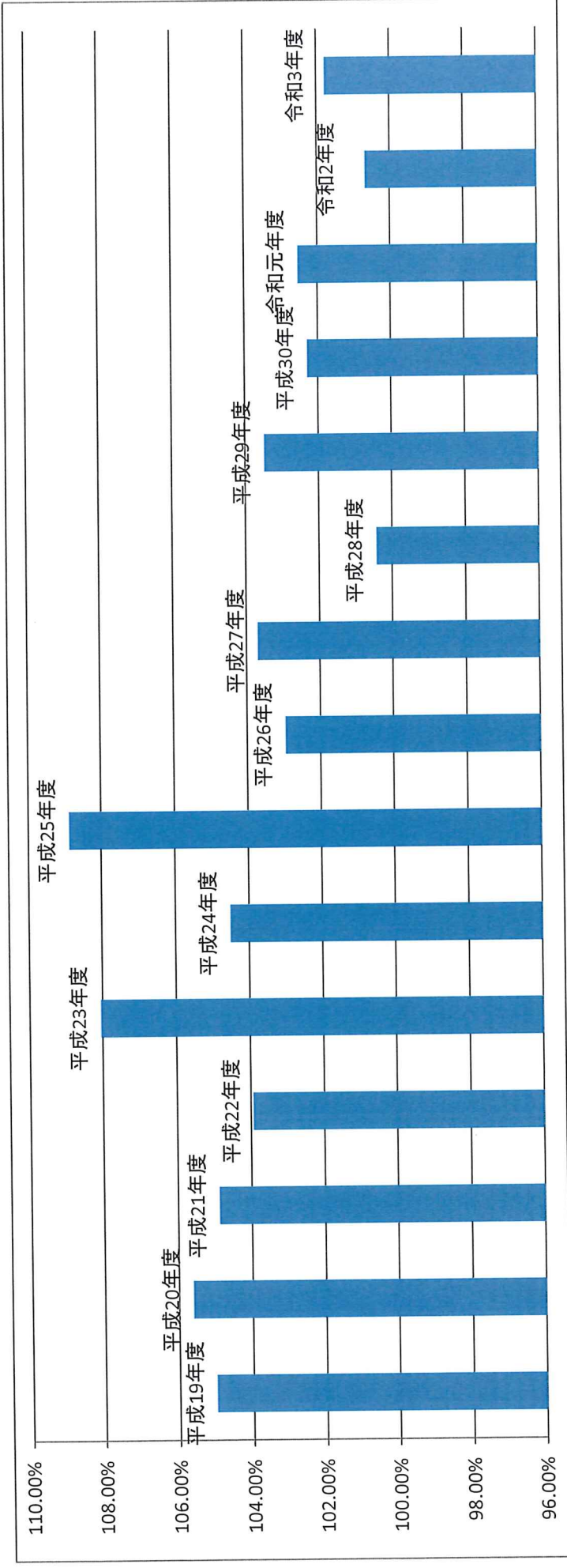


(別表10) <月別稼働率>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特養	995	1,096	1,063	1,008	981	983	926	939	989	1,035	992	1,105	12,112
ショートステイ	409	388	328	450	487	412	389	401	520	443	356	393	4,976
計	1,404	1,484	1,391	1,458	1,468	1,395	1,315	1,340	1,509	1,478	1,348	1,498	17,088
延べ定員数	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,380	1,426	1,380	1,426	1,426	1,288	1,426	16,790
稼働率	101.74%	104.07%	100.80%	102.24%	102.95%	101.09%	92.22%	97.10%	105.82%	103.65%	104.66%	105.05%	101.77%

特養・ショート(定員46名)

(別表11)



稼働率

19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
104.99%	105.61%	104.88%	103.93%	108.05%	104.50%	108.88%	102.96%	103.69%	100.42%	103.48%	102.29%	102.54%	100.67%	101.77%